

2010年度

特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク

評価事業報告書

2011年7月

TAN 評価委員会

はじめに

特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク（TAN）の2010年度の評価事業報告書をお届けする。2001年の第一生命ホール誕生と同時に活動を開始したTANの評価事業は、設立の翌年の2002年度から実施されており、今年度は、2008年度にスタートした第3期評価委員会の3年目となる。

これまでの評価事業報告書でも繰り返し述べているが、第3期のスタートにあたって評価委員全員で合意したことは、「組織が前に進むための改善と強化を図るため」の評価を行う、ということであった。TANの活動を多角的な面から客観的に評価し、建設的なアドバイスを行うことを目指して進められた評価委員会での議論は、3年間を通して大変活発であった。

2008年度から2009年度にかけて、評価委員会では、TANの自己評価のフォームのあり方、ミッションとの関係性、それに基づいた外部評価の方法などについて、活発な意見交換のもと提言を行った。TAN事務局では、直ちにそれを2009年度の事業計画フォームに反映させている。このようなスピーディな取り組みを可能にしているのは、事務局長をはじめとしたTANの個々の人材の優秀さ、仕事に対する真摯さ、TANに対する思いの強さ、それらを総合した「組織力」に他ならない。

この3年間、TANの周辺でさまざまな出来事があった。2009年秋のメセナ大賞受賞は、支援母体である第一生命保険株式会社に対してのものではあったが、TANの活動のユニークさ、実績に負うところが大きく、大変喜ばしいことであった。

一方で本年3月に起きた東日本大震災では、第一生命ホールへの被害はなかったものの、自主事業の中止や延期などの対応に追われた。今後、危機管理のみならず、人々の価値観の変化などにも対応していく必要があると考えられる。

また、「改正特定非営利活動促進法（改正NPO法）」が、6月15日に国会で可決されたことにより、TANが目指している認定NPO法人の資格取得の手続きや条件等も変わってくる可能性が生じている。今後もきめ細やかな情報収集が必要であろう。

最後に、この3年間、評価委員各位には多忙なスケジュールの中、年3回の委員会への出席をはじめとしてTANのコンサートやコミュニティ活動見学にも積極的にご参加いただいた。改めてお礼を申し上げます。また、評価委員会での質疑応答や情報提供、自由な意見交換の場を設けていただいたTAN事務局各位、ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます次第である。

2011年6月22日

TAN第3期評価委員会委員長

武濤 京子

目次

はじめに	－ 1 ページ
第I部：2010年度評価事業について	
1. 第3期評価委員会メンバー	－ 3 ページ
2. 2010年度評価委員会の活動経過と内容	－ 4 ページ
3. 評価の視点・方法	－ 5 ページ
第II部：2010年度評価活動	
1. ミッション評価	－ 6 ページ
2. TANの自己評価に基づく評価	－ 7 ページ（綴じ込み資料）
3. 総合評価と提言	－ 9 ページ
第III部：第3期評価委員会のまとめと今後に向けて	
1. 第3期評価委員会	－ 11 ページ
2. 今後に向けて	－ 11 ページ
3. 評価委員の感想	－ 12 ページ
第IV部：資料編	
1. TANのミッション・定款	－ 16 ページ
2. 第一生命との関係およびTAN組織図	－ 17 ページ
3. 事業活動関連資料	－ 18 ページ
4. 広報ツールリニューアル関連資料	－ 23 ページ
おわりに	－ 28 ページ

本年度最初の評価委員会は 2011 年 2 月に行われた。

前年度（2009 年度）に評価の枠組みと評価フォームの大幅な変更を行ったため、第 1 回目の委員会では、昨年度の評価事業について振り返り、新しい評価の枠組みや評価フォームは適切でわかりやすいものであったか、などについて意見交換をおこなった。「TAN の自己評価に基づく評価」に「ミッション評価」を加えた評価の枠組みについては、NPO の活動評価として一定の成果を得られたと考えられる一方で、TAN の目標に対する「今後に向けて」の提言が評価フォームの中に埋もれていて、わかりにくい部分があったなどの意見が出された。

これらを踏まえて、本年度の評価においては、1. TAN の自己評価と同じフォームを用いた外部評価の実施、2. 中長期的な活動に対する評価視点としての「ミッション評価」の実施、そして 3. 総合評価と提言 という大きな枠組みで評価を行うこと、また、評価フォームを一部改訂して、「今後に向けての課題と提言」という欄を設けることとした。

また、2011 年度に TAN 設立 10 周年を迎えるということから、TAN の今後の 10 年に向けての意見交換を実施し、最後に評価委員会の 3 年間の活動の総括を行った。

1. 第3期評価委員会メンバー

委員長	武濤 京子	昭和音楽大学音楽学部 音楽芸術運営学科 教授
委員	片山 正夫	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事
委員	喜多 爽	公益社団法人企業メセナ協議会 プログラム・オフィサー
委員	河野 聰	中央区文化・国際交流振興協会 事務局長
委員	善積 俊夫	社団法人日本クラシック音楽事業協会 常務理事

<トリトン・アーツ・ネットワーク>

君島 由子	第一生命保険株式会社 DSR 推進室 課長
大坪 昌平	第一生命保険株式会社 DSR 推進室 課長補佐
植田 寛	TAN 事務局長
田中 玲子	TAN ディレクター
的場 康子	(株) 第一生命経済研究所 主任研究員

<評価委員会事務局>

丸山 こず恵	昭和音楽大学大学院 修士課程修了
安間 雅則	昭和音楽大学大学院 修士課程修了
白川 美帆	昭和音楽大学卒業

2. 2010 年度評価委員会の活動経過と内容

■ 第 1 回評価委員会

日 時：2011 年 2 月 2 日（木） 15：00～17：30

会 場：TAN 会議室

- 内 容：・2010 年度活動の中間報告（TAN 事務局）と質疑応答
- ・2010 年度の活動評価方針、評価フォームについて意見交換
 - ・「TAN の活動に対する地域住民の声」を把握するため、
 - ①かわら版アンケート結果（2008 年および 2009 年に実施）
 - ②コミュニティ活動アンケート（2008 年～2010 年に実施）のまとめを行うことを決定

※終了後、630 コンサート「曾根麻矢子（チェンバロ）、古部賢一（オーボエ）」を鑑賞

○ TAN 事務局の依頼に基づき、下記 2 点についてメールでコメントを提出（3 月）

- ・毎年発行している事業報告書の内容、体裁について
- ・リニューアル（2/21 オープン）した TAN ホームページの内容について

■ 第 2 回評価委員会

日 時：2011 年 4 月 15 日（金） 13：00～15：00

会 場：TAN 会議室

- 内 容：・「2010 年度業務計画・振り返り」に基づく自己評価（TAN 事務局）と質疑応答
- ・2010 年度の TAN 課題 5 項目（1. 発信力強化、2. 集客力強化、3. コミュニティ活動強化、4. 組織力強化、5. 10 周年に向けた取組）についての評価を実施

■ 第 3 回評価委員会

日 時：2011 年 5 月 9 日（月） 15：00～17：00

会 場：TAN 会議室

- 内 容：・TAN より HP リニューアル後のレポート報告
- ・「2010 年度業務計画・振り返り」（TAN 事務局作成）に基づく総合評価と提言
 - ・「広める」「創る」「育てる」をキーワードとしたミッション評価
 - ・来年度および中長期的な視点における TAN の活動への提言
 - ・第 3 期評価委員会のまとめと第 4 期評価委員会への申し送り

3. 評価の視点・方法

昨年度に行った評価の枠組みを原則として踏襲し、以下の3つの視点による評価を実施した。

評価の視点	評価項目
1. ミッション評価	<ul style="list-style-type: none">・「広める」・「創る」・「育てる」
2. TANの自己評価に基づく「外部評価」	<ul style="list-style-type: none">・発信力強化・集客力強化・コミュニティ活動強化・組織力強化・10周年に向けた取組
3. 総合評価と提言	<ul style="list-style-type: none">・2010年度の活動について・今後のTANの活動への提言

1. ミッション評価

TANのミッション

音楽活動を通じて地域社会に貢献するNPOとして「音楽により、多くの人々の心に豊かな時間を提供する」をミッションに掲げ、音楽を「広める」「創る」「育てる」活動をしている。その大きな柱は「第一生命ホールを拠点とした芸術活動」と「地域コミュニティと芸術や芸術家を音楽によって結び付けていくコミュニティ活動」の2つである。
(TANホームページ、TANアウトリーチハンドブック作成委員会「アウトリーチハンドブック」を参考)

ミッションと視点*		評価委員会による外部評価
TANミッション	視点	評価コメント
広める	音楽をあらゆる年代、あらゆる層の人に広める	<p>総合評価：「広める」活動は着実に進んでいるといえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象層に応じたプログラムを「広める」 ライフサイクルの様々な場面にに対応した企画制作が充実し、広報ツールを通じた情報発信にも意欲的で、多様な層へのアプローチが実を結びつつある。 ●TANの活動、存在を社会に「広める」 社外セミナーや大学での講演など、活動を新たな形で外部に広めることができている。また、ミロカルテットがベスト公演のひとつとして雑誌に掲載されたり、複数の公演がテレビ放映されるなどマスメディアへの露出増加は、TANの活動を、「公演を通じて社会に広める」ことになったといえる。 ●子どもたちに「広める」 「夏休みキッズコンサート」や「ロビーでよちよちコンサート」などの新企画がスタートし、今年は幼児から子ども向けのプログラムが充実してきた。「子どものためのクリスマスコンサート」の完売など、子どもの催しに対するニーズがよく把握できている。また、1～3歳児は年々変わっていくので、その意味では新しい顧客を得られているともいえる。 ●発信ツールから「広める」 ホームページのリニューアルやかかわら版の刷新、ツイッターの活用など、多様な発信ツールを用いてTANの活動を広める取り組みが、着実に行われている。それぞれのツールの連動性など、内容にはさらに工夫の余地があるが、「広める」取り組みとしては、十分に意欲的であるといえる。
創る	創意工夫した音楽プログラムを創り提供する	<p>総合評価：創造性や質は十分評価できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●独自のプログラムを「創る」 新シリーズ「ロビーでよちよちコンサート」や「音楽のある週末」のスタート、既存のプログラムの発展など、プログラムの創造性は非常に評価できる。コミュニティ活動もホール公演も、満足度は高く、質の高いプログラムを創っていると言える。 ●サポーターが「創る」 「オープンハウス」への積極的な関わりや、自主企画運営による「トリトングランドロビーコンサート」の実施など、昨年度に引き続き、サポーターによる自主的で創造性の高い活動が行われており、サポーターの精鋭化に伴った創意工夫がなされつつあるという点でも評価できる。 ●質の高い芸術プログラムを「創る」 記事掲載や放映のあったSQW、630コンサートだけでなく、ロビーコンサートやコミュニティ活動など、比較的ビギナー向けのプログラムにおいても「演奏がすごい」「楽器がすごい」等のコメントがあり、どんなプログラムでも、丁寧で質の高いプログラムを提供している。 ●パートナーと「創る」 小学校アウトリーチでは、音楽教諭のアンケート評価も高く、パートナーのニーズに対応した、適切なプログラムが創られていると評価できる。アウトリーチ活動に関しては、文科省の「コミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」など、連続して行うプログラムを更に深めていけるとよい。 ●地域コミュニティを「創る」 地域の中でのブランディングや、下町の文化や歴史との連動、トリトン・スクエア内のお店との協働など、コミュニティのなかで、プログラムを魅力的にみせる手法を創っていけるとよい。 ●新しいコンテンツを「創る」 新しい聴衆を開拓するという点では、これまでとは違うコンテンツを「創る」ことも考えられる。そのためには、音楽とは別の分野とのパッケージング、音楽以外の付加価値など、新たな出会いを生み出すきっかけを創ることが、これからの課題になるだろう。
育てる	若手演奏家、アートマネジメント、文化ボランティア人材を育てる	<p>総合評価：「育てる」活動は次のステップに進んだと言える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●演奏家を「育てる」 アドヴェントセミナーは演奏家を育てることに直結しており、来年度からの「室内楽アウトリーチプログラム」への発展は新しい試みとして期待ができる。それ以外にも、若手指揮者との定期的な企画や、若手の室内オーケストラの結成等、これから伸びそうな人材を発掘して育てる取り組みなどが行えるとなお良い。 ●マネジメント人材を「育てる」 自己啓発を積極的に支援するなど、TANスタッフのスキルアップの機会が図られており、評価できる。また、スタッフマネジメント（労務管理）にも工夫がみられる。文化庁の平成23年度「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」に採択されたことで、スタッフを他の劇場に研修派遣できることになり、人材育成という点で非常に有意義と言える。

* TAN 作成「音楽を地域でつなぐトリトン・アーツ・ネットワーク」パンフレットに基づく

2. TANの自己評価に基づく評価（1）

2010年度の方針 **プレ10周年「広める」「創る」「育てる」の追求によりあらゆる年代、あらゆる層の多くの人と音楽の楽しさを分かち合おう**

TAN 自己評価			評価委員会による外部評価	
課題	目標	振り返り	評価コメント	今後に向けての課題と提言
1. 発信力強化	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページリニューアル ② TAN かわら版内容更新、新聞折込み実施 ③ 社外セミナー講師等による対外発信 ④ 先行ダイレクトメール・TAN メール等発信強化 ⑤ マスメディアへの発信強化 ⑥ 中央区行政との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ① 作成作業の遅れにより、12月リニューアル予定が2月オープンとなった。ホール公演とコミュニティ活動のTAN活動の二本柱を理解していただくような仕立をした。 ② 編集者を交替し、親しみやすい紙面を目標とした。新聞折込みは3回実施し、認知度を高める工夫をした。 ③ 昭和音楽大学の「ミュージック・コミュニケーション講座」でアートNPOの役割と仕事についてディレクターと制作担当が講演を実施した。 ④ ダイレクトメールは2010年2月3975名から2011年2月5386名へ増加。月2回発行のTANメール会員は2010年4月1115名から2011年2月1245名へ増加した。 ⑤ 音楽雑誌でミロカルテットが2010年のベスト公演の一つに選出された。NHK収録でSQWのミロカルテット、音楽のある週末のイングリット・フロッター、630コンサートの曽根麻矢子が取り上げられた。 ⑥ 教育委員会から子ども向けコンサートの後援名義をいただいた。新規募集となった中央区協働事業や文化事業に子育て支援のコンサートで応募するも残念ながら採択はされなかった。 	<p>総合評価：発信力は効果的な改善で強化された</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーションツールのリニューアル ホームページが刷新され、モニターレポートやアーティストインタビューなど、「読ませる」コンテンツがしっかりまとまり、一層充実した内容となった。発信ツールのひとつとして、更に機能性が向上したと言える。上品なイメージだが、若干おとなしめの印象を受けるので、写真やカットを目立たせる、動画を活用するなど、「見せる」面でももう工夫が欲しい。アクセス解析などのデータも活用し、さらなる利便性の強化を期待したい。 ● メディアリレーションの質的向上 専門各誌のベスト公演に選出されたり、TVでのコンサート放映が増えるなど、本年度は媒体への露出が増加しただけでなく、質的なメディア広報活動の向上が明らかであった。 ● 外部組織主体の場への参加による発信 大学での講演や、中央区行政への働きかけなど、音楽や公演以外の活動で、TANやTANの活動についての発信への取り組みがみられる。幅広い分野において、TANの活動が継続的に発信されていることは大きく評価できる。 ● かわら版の活用 中央区内の全小学校においてかわら版を配布していることは、アウトリーチの効果であり、発信力を着実に強化しているといえる。編集者や内容の見直しなど、かわら版に対する取り組みは意欲的であるといえるが、様々なチラシや紙の宣伝媒体の中で、かわら版を発信ツールとして有効活用するには、紙面にインパクトを持たせて人の目を引くなど、さらなる工夫の余地があろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● TANのブランドの構築 TANの創立から10年が経過したことを踏まえ、TANの「ブランディング」の充実と可視化を今後の課題としてあげたい。そのために、設立時の想いから、これまでの活動の軌跡、エピソードなどを「ストーリー」として示していくことが効果的ではないだろうか。たとえば、第一生命ホールやTANの10年間の歴史の中で起きたエピソードメイキングな出来事を素材としたもの、伝統とニュータウンとしての2つの顔を持つ中央区にある「一生音楽と触れ合える」身近な場としてのホールに着目したもの、ライフステージ戦略を軸に、「小さな子供のころから私の人生はTANの音楽プログラムとともにあった」のように、「人」に焦点をあてたストーリー展開などが考えられる。魅力的なブランドの確立、それによる「TAN」そのものの認知度の向上は、大きな発信力となる。 ● かわら版の内容を強化 左記でも触れているように、かわら版の内容については、さらに改善の余地がある。不特定多数の人や、他のチラシ類の中からかわら版を手にとってもらうためには、内容を更に絞り込んで見出しやキャッチを目立たせる、エッセンスのみを掲載する、ストーリー性を出していくなどによって、よりインパクトを持たせることも考えられるのではないだろうか。 ● 発信ツール（かわら版、ホームページ、ツイッター等）の連携 メディア発信ツールである、かわら版、ホームページ、ツイッターなどに、コンテンツの連動性、イメージの統一性を図り、更に機能的な発信を工夫してほしい。閲覧者がひとつのツールで完結せず、関連する諸ツールの情報にアクセスできるよう、よい流れを作れると理想的である。
2. 集客力強化	<ul style="list-style-type: none"> ① 魅力あるコンサートの提供による各コンサートの目的、集客目標達成 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンサートシリーズの総括、各コンサートの集客の入場者結果は2010年度事業報告書参照。 ・ 音楽のある週末→シリーズでの収支単体黒字化を目指したが集客が伸び悩み累計赤字となったが、新たな顧客層の獲得は出来た。 ・ 夏休みキッズコンサート→夏休みの日程や価格の影響が集客は伸び悩んだものの、オーケストラの満足度は高かった。 ・ 子どものためのクリスマスコンサート→日程と低廉価格の求めやすさ、完売となり、子どもの多い地域のニーズを実感した。 ・ 育児支援コンサート→例年通り好評で完売となった。 ・ ロビーでよちよちコンサート→ホール周辺の1～3歳児人口増加により抽選となり、親子で周囲を気兼ねせず音楽を楽しめる環境が提供できた。 ・ オープンハウス2010→サポーターによる実行委員会形式でオーケストラ百科展と称し、アルクスオーケストラや中央区交響楽団と連携して来場者を楽しんでいた。 ・ 昼の音楽さんぽ→多彩なプログラムで子育て世代の女性層以外にもシニア層の来場が定着した。 ・ 630コンサート→ジャズとのコラボやバロック音楽等毎回趣向を凝らして実施した。 ・ ふたりでコンサート→例年通り充実した内容で楽しみにしているお客さまが多く、定着した。 ・ SQW→フェスタのミロカルテットは前年のカルミナと比較すると集客は伸び悩んだものの、意欲的なプログラムでNHK収録や音楽雑誌でのベスト入りするなど評価が高かった。今年度回数を減らしたガレリアではエクセルシオが小山実稚恵をゲストに付加価値を高め、集客に成功した。古典四重奏団は東日本大震災の2日後に実施され、来場者に感動を与えた。なお来場できなかったお客さまには特別に払戻し処理を行った。 ・ アドヴェントセミナー→17名のセミナー生で予定通り実施でき、室内楽ロビーコンサート、クリスマスコンサートで成果発表を行い、開設以來実施してきたセミナー形式は収束した。 ・ 共催公演→日本音楽集団、東京混声合唱団の定例以外に山田和樹・ザンソン優勝記念コンサートや静岡文化芸術大学との多彩な共催公演を実施できた。 	<p>総合評価：集客力強化に向けて積極的な工夫に努め着実に前進した</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新シリーズや各公演での意欲的な取り組み 「音楽のある週末」や「夏休みキッズコンサート」などの新シリーズのスタートなど、多くの公演において、改善や新たな挑戦を行っていることは、意欲的であり大きく評価できる。数字としての成果が目標に達していないものもあるが、今回の取組みをもとにした、次年度への取り組みに期待したい。 ● 段階的なプログラムの充実 「ライフサイクルコンサート」をはじめとした、対象の層を分けた段階的なプログラムは、企画、コンテンツともに充実してきており、完成型に着実に近付いていると言える。細かい点では、高齢者向けコンテンツの更なる充実や、段階的に進んでいることのイメージの定着など、改善の余地はあるが、満足度は大変高いといえる。 ● 企画の意義・内容の充実 SQWシリーズはメディアによる付加価値（ベスト公演選出）が付けられたことによる質のアピールや、震災直後の実施に対する反響の大きさから、意義を深めた手応えが感じられる。またミッション評価にもあるように、事業に対する観客・参加者の満足度は驚くべきものであり、リピーターや同伴に繋げる潜在的可能性もうかがえる。 ● ニーズを把握した企画の実施 「ロビーでよちよちコンサート」は非常に人気が高く、企画として大きな成果であると言える。また、「オープンハウス」などサポーターを活用した企画も、集客力、発信力の両方に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集客の目標設定と分析 集客目標を立てる際、プロモーションを目的としたものと収益を求めるコンサートを分けて考えると良いのではないかと。自己評価の際にも、目的別の方が効率的である。また、集客に関する分析は今後の課題であるといえる。一昨年はSWOT分析が行われていたが、今後はアンケート等のデータ分析から、潜在的に確認できるリピーターや同伴予備軍を、実際の動員に繋げるしかけを企画やツールに施してほしい。 ● 高齢者に向けたプログラムのプロモーション 高齢者向けのプログラムも充実しているにも関わらず、その認知や印象が弱い「ライフサイクル」というより「子ども向け」プログラム中心とのイメージが強くない。タイトルからすぐ高齢者向けのプログラムと分かるものや、参加型などで高齢者を上手く取り込んだプログラムを作ることができれば、「子どもから高齢者まで」という、TANのブランドあるいはストーリーづくりとして明確になり得るのではないかと。 ● 集客のための付加価値企画の創出 集客力の強化という点では、音楽とは別の面で付加価値をつけることも考えられるのではないかと。トリトンスクエア内の施設との連携による新たなコンテンツや企画の検討なども一案である。例えば、演奏会や曲目にちなんだメニューでタイアップ、友達を連れてきた時の割引、会員特典としての演奏家とのパーティなど、一般的な商業戦略も参考にアイデアを練りたい。科学や地域の歴史など、他分野での講座とのセット企画など、地域の教育熱心な親子や高齢者の知的好奇心を想定した企画も効果的ではないだろうか。 ● 地域コミュニティとの連携による集客力強化 「クラシック」という枠組みを超えた面で集客を図ることも可能ではないか。音楽以外のアートセンターやコミュニティ施設でチラシを置かせてもらうなど、近隣地域でのアピールが考えられると良い。また、中央区との連携も、「新しく作られたものを、協働事業として一緒にやっていく」という意識を持つことにより、期待できるだろう。

2. TANの自己評価に基づく評価（2）

TAN 自己評価			評価委員会による外部評価	
課題	目標	振り返り	評価コメント	今後に向けての課題と提言
3. コミュニティ活動強化	①江東区豊洲地区への活動展開 ②サポーター自主企画の実施 ③アウトリーチ新プログラムの実施 ④第一生命マッチングギフトプログラムの定着 ⑤コミュニティ活動の方針策定 ⑥活動の振り返りの徹底	①豊洲地区2小学校、保育園にてアウトリーチを新規実施した。豊洲小学校のアウトリーチが地元のケーブルテレビのニュースに取り上げられた。 ②サポーター企画で中央区でよちよちすくすくコンサートを生民委員協力のもと実施した。またトリスクエアグラントロビーでのロビーコンサートを任意のロビーコンサート班が自主的に運営できた。 ③文部科学省の推進する「コミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」プログラムを音楽の授業で2小学校で3回ずつ実施した。 ④実施が継続実施の2部署に留まり、新規実施部署が無かった。 ⑤小学校中心にほぼ例年通りの回数が実施できた。繁忙時期にかかった一部地域イベントは参加を見送った。 ⑥活動毎のシートの振り返り欄を整理記入し、月例の会議で振り返りを実施した。	総合評価：コミュニティ活動は質と個性豊かなブランドとして浸透している ●文化庁助成金の獲得 文化庁の平成23年度「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」の「地域の中核劇場・音楽堂」として採択されたことは、TANのコミュニティ事業が客観的に評価されたこととして、非常に高く評価できる。また、TANコミュニティ活動は、昨年度に引き続き質量ともに非常に充実しているといえる。 ●活動計画・内容の改善 前年度、少し活動が広がりましたという反省から、今年度、活動の優先順位を意識し重点強化できたこと、振り返りにより課題を明確化させたことは評価できる。また、文部科学省の「コミュニケーション教育」と連動した新プログラムの実施など、内容も進化している。アウトリーチの実践、理論の双方を有しているという点は大きな強みであると評価できる。今後、コミュニティ活動の成果をメソッドとして整理、発信していくことが期待される。 ●活動の効果測定 昨年度の評価でもあげた「コミュニティ活動の効果測定」は、残念ながら進展があまりみられなかった。対象者へのアンケート調査集計だけではなく、客観的な効果測定や評価への今後の取組みに期待したい。	●効果測定の実施と分析 活動数、内容ともに非常に充実しているTANのコミュニティ活動においては、より正確にその効果を分析し、中長期的な視点からの活動を考えることが、当面の課題といえる。そのためには、参加者の感想だけでなく、TANのコミュニティ活動についての認知度がどれくらい高まっているか、特にサイレントマジョリティへの意見収集によるコミュニティへの浸透度などについても客観的に知ることができると良い。その手法について、ぜひ検討してほしい。学生の卒論や研究、サポーターが自発的な調査をするなど、他との協力が得られるととても良いし、定期的に定点観測できれば理想である。 ●コミュニティ活動の発信 コミュニティ活動の成果をメソッドとして、全国の中核ホールに出せるようなものを作ることも考えられる。将来的には、TANでコミュニティ事業を学んだ人たちが、地元に戻って自分たちの場所でそれを活かすという形も考えられる。コミュニティ活動を発信していくことは、全体の発信力強化にも繋がるので、意欲的に取り組んでほしい。
4. 組織力強化	①個人会員・法人会員の増強 ②サポーター登録会の実施 ③サポータースキル研修の実施 ④単年度黒字化の実現 ⑤TANスタッフ自己啓発の実施 ⑥コンプライアンス遵守 ⑦TANスタッフの労働時間改善、振替休日の完全取得 ⑧チケット販売アウトソーシング化の実施	①個人会員は第一生命会員中心に55名純増。法人会員は既存の種別変更や新規獲得で330万増収。 ②期始の登録会で活動方針を説明し、理解の上57名の方に登録いただいた。 ③第一生命ホールを担当するレセプションистマネージャーを講師にお客さま対応やレセプションの動き方などを実務的な研修を行った。 ④チケット新システム導入やホームページリニューアル等高額投資があったが、経費の見直しにより307万の黒字化を実現した。 ⑤業務に役立つ各種セミナー、研修の参加費用の支援、時間外の参加の労働時間算定による環境整備を行い、各スタッフは最低半期に1回は参加した。 ⑥軽微なダブルブッキングの発生はあったが、金銭関係、重大苦情関係の発生は無かった。電話応対でのお客さま情報対応について第一生命コールセンターに見学打合せを実施した。 ⑦みなし勤務者中心に就業規則の改定、勤務管理表による労働時間のフォロー徹底を行ったが、土日勤務の増加により振替休日未消化残が恒常的に発生し、年度末完全消化を目指したが、一部スタッフに未消化残が発生し清算が必要となった。 ⑧お客さま利便性の向上とチケット事務の大幅省力化を目指し、チケット新システムを2月に導入した。クレジットカード決済やコンビニ払いやウェブでの座席指定が可能となるなど利便性向上が図られ、チケット担当者の大幅業務効率化も図られた。	総合評価：組織力は大きく基盤強化されたといえる ●組織体制の思い切った変革が効果 会員増加、黒字収支、チケットシステムの改善、実務研修の実施など、昨年度から取り組んできた項目のそれぞれに結果が出ている。2010年度は組織体制の強化に意欲的に取り組んだ年であり、一年間でこれだけの強化がなされたことは、高く評価できる。 ●サポーター運営の改善と活用 サポーター登録制度の見直しによる精鋭化など、サポーターのマネジメントは非常に良くなってきているといえる。また、サポーターによる企画運営が事業の幅を拡げ、プロパースタッフが新たなチャレンジをする機会創出にもつながっており、この点についても大いに評価したい。	●経営全体の更なる向上 現在の水準を保ちつつ、認定NPOの取得を踏まえながら、予算と会員数を今後いかにして安定させていくかについては、今後に向けての全般的な課題としてあげておきたい。 ●会員制度と寄付のあり方の検討 会員制度に関しては、中長期的な問題でもあることから、引き続き課題としてあげておきたい。寄付と支援、特典をどのようなバランスでアピールするかについては、寄付者の心理を考えながら今一度整理してみると良い。また、寄付金の使い道や、TANの事業についても、より明確に説明する必要があるのではないかと。会員のニーズを把握しながら、最適な方法を模索してほしい。 ●第一生命との関係 最大支援母体である第一生命との関係を整理することもひとつの課題であるといえる。TANとしては、第一生命の「一生涯ストーリー」に沿った事業をいかに組み立てるか、第一生命は、CSRとしてなぜ芸術を選び支援するのか、2009年度メセナ大賞を受けた理由に立ち返るなど、もういちど根本的な点から整理して、言葉でコンセプトを作っていくことが、今後の互いの位置づけを明確にするうえで重要であるだろう。
5.10周年に向けた取組	①10周年記念公演の確定 ②中期経営計画の策定 ③第一生命との連携策提案 ④評価基準、経営計画への反映	①10周年の10daysを中心に確定した。第一生命との協力特別コンサートは詳細継続検討中。TAN/第一生命ホール10周年ロゴとTAN新ロゴを策定し、チラシ・HP等で使用開始した。 ②③TANの進むべき方向性は打出したが第一生命のTAN支援ホールの方向性を関連所管と継続検討中である。 ④TANのミッションに沿った評価基準を参考に業務計画やホームページ等対外発信物の見直し実施した。	総合評価：10周年を節目とした適切な整備が進んでいる ●今後の目標達成へ向けての期待 検討中の事項や現在進行中のものが多いため、現時点で一概に評価を行うことは難しいが、10周年に向けてプログラムや活動の基盤などが一気に整えられてきており、方向性や取り組みは適切であると言える。10周年を区切りに、これからの中期的な方針に期待したい。	●活動範囲の拡張 新しい活動拠点（豊洲のホール）を含めた中期展開を想定していきたい。中央区、江東区豊洲地区を中心に活動するということであるが、理解ある音楽ホールと協力してTANでしかない面白いプログラムを提供するという点も検討の余地はある。「広める」という方向性にもなるのではないかと。 ●経営や活動に地元の声を この区切りに、地元のニーズを知り、地元の声をきちんと組み込める体制作りを期待したい。住民にもNPOの経営に参画してもらうことなども考えられるだろう。

3. 総合評価と提言

■ 2010 年度の活動について

TAN が掲げた、「プレ 10 周年『広める』『創る』『育てる』の追求によりあらゆる年代、あらゆる層の多くの人と音楽の楽しさを分かち合おう」という目標は、多様な取り組みにより、確実に達成されていると評価できる。

今年度はプレ 10 周年という位置づけであるが、10 周年の節目を迎えるに当たり、特に経営力や組織力を強化する取り組みを積極的に行い、収支や会員数などの数値的な成果が表れていることは特筆に値する。同時に、新しいプログラムの企画開発が精力的に推進され、幅広い年代に向けいくつものライフステージを対象としたプログラム構造が完成しつつあり、十分評価できる内容であったといえるだろう。

コミュニティ活動の効果測定など未着手の課題も残っているが、ミッションをより深く掘り下げたプログラム作りや、かわら版・ホームページの刷新をはじめとした発信力強化への取り組みなどが、この 2 年間で着々と、かつ迅速に進められていることは素晴らしい、TAN の自己評価に示されているように、評価委員会が提示した評価・提言が確実に事業内容にフィードバックされていると言える。

■ 今後の TAN の活動への提言

第 3 期評価委員会としての活動が 3 年目を迎え、2011 年 2 月、4 月、5 月と 3 回にわたって開催された評価委員会における TAN 事務局・関係者との質疑応答・意見交換は大変活発で充実したものであった。

本年度においては、2011 年度に TAN が設立 10 周年を迎えることを踏まえて、「これまでの 10 年の振り返り」と「今後の 10 年間の構想」という視点からの話し合いも行った。その内容についても、第 6 の項目として合わせて提示しておきたい。

1. 中長期的なブランド力の創造

発信力や集客力の向上、および会員拡大等のために、これからもっとも注力したいのが、認知や個性を端的に喚起するブランドの確立である。文化庁の平成 23 年度「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」（5 年間の助成）に「地域の中核劇場・音楽堂」として採択されたことにより、5 年という中期的なスパンの中での取り組みや戦略の考案も可能となった。この間に、TAN のミッションとの連携や第一生命ホールの特徴づくり、ホールの存在意義などを念頭に置いた活動を求めたい。

2. 幅広い観客創造をめざした意識と工夫

現在進められている新シリーズの展開や、ライフステージにあわせた段階的なプログラムづくり、充実したコミュニティ活動の積み重ねを、顧客創造、集客力強化の視点でより有機的につなげていく意識と工夫が必要であろう。「ストーリー」に基づくはっきりしたイメージづくり、関心をひいたタイミングで次の案内に紐づけるなど、潜在的な顧客を囲い込む具体的な取り組みを期待したい。

3. 地域との新しい関係づくり

地域密着の視点からみると、文化庁の助成を受ける 5 年の期間中に、中央区との関係を中心に次の 10 年の布石となる創造的な試みを行い、他の地域ホールのモデルとすることができれば理想的である。現在の支援関係なども整理しながら、新興ファミリー層が急増し、劇的な人口構成の変化を迎えている中央区エリアにおいて、地域参加、コミュニティ形成、次世代教育の担い手として、第一生命ホールでの文化活動を位置づけていけると良いのではないだろうか。

4. 会員制度およびファンドレイジングの新展開

会員制度や寄付は経営基盤の主軸である。法人会員が参画の実感や特別感を得られるフィードバックの方法や特典を開発したり、個人寄付を動機タイプ別で分けたり、多様な協賛メニューを整えるなどを今後の最優先課題として、引き続き検討していく必要がある。具体的なタイムフレームとしては、認定NPOの取得をめざして準備を進めているので、取得後の運営要件・体制を前提に検討していきたい。

5. 災害対応等に対するビジョン

現在の社会情勢を鑑みると、文化団体として、地震をはじめとした災害に対する視点を持つていくことは大切であると考えられる。実際の細かい災害対応や危機管理、払い戻しや節電等の実務処理のあり方を見直していくことはもちろんのこと、災害が起きた際、音楽およびコミュニティ活動が本質的に何を提供しているのか、どう活動していくべきかといったことを、日頃から演奏家や芸術関係者と協議しておくべきであろう。

6. 今後の10年間にに向けたガバナンスの再考

この項では、以下の2点を挙げる。

ひとつ目は、「ミッションの整理と再定義」である。現在のミッションには、統一して明文化されたものがなく、様々な媒体での紹介の中で、微妙なニュアンスの違いがある。「広める」「創る」「育てる」という言い方はたいへん分かりやすいが、「クラシック音楽という言葉が入っていると限定的なイメージを与える可能性もある」などの意見もある。「広める」「創る」「育てる」ことによって何を実現するのか、意義付けを改めて整理していく必要があると考えられる。

ふたつ目は、「地域密着のNPOとしての組織体制のあり方」である。これまでの活動をふまえて、今後TANにはより一層「地域の拠点としての組織づくり」を求めたい。活動基盤である中央区の住民がサポーターのみならず、理事・役員として、より積極的に活動にかかわるための戦略や具体的な方策なども検討される時期に来ているかもしれない。

1. 第3期評価委員会

トリトン・アーツ・ネットワーク（TAN）の評価事業は、定款第5条に明文化されている。評価委員の任期は3年間となっており、第3期評価委員会の活動も本年度が最終年度となった。

TAN 発足の翌年に組織された第1期評価委員会（2002年度～2004年度）は、「ホール事業」、「アウトリーチ活動」、「NPO ガバナンス」という3つの評価軸を設定し、TAN と評価委員の合同ディスカッション方式で評価を実施した。

第2期評価委員会（2005年度～2007年度）では、評価委員会の意見・提言を理事会へ報告し、理事会からのフィードバックの形でTANに還元されるしくみが検討された。また、21項目からなる実験的な「評価シート」が提案され、その再検討が第3期評価委員会に委ねられた。

2008年度よりスタートした第3期評価委員会では、評価委員全員がホール事業、コミュニティ事業を実際に鑑賞・見学し、TANの歴史・組織、活動状況、第一生命との関係などについて把握し、理解を深め、咀嚼したうえで、「評価委員会」として能動的なコメントを出すことを心掛けた。また、これまで4月と5月の2回行われていた評価委員会を、年度途中にも実施し、よりきめ細かな評価と提言を行うようにした。

第3期評価委員会の3年間の総括として、「新しい評価フォームの構築」と「評価の循環プロセスの確立」が成果として挙げられる。

(1) 新しい評価フォームの構築

初年度（2008年度）は全く手さぐり状態で、第2期評価委員会で提示された実験的な「評価シート」のフレームを利用した。それを踏まえて、2年目にあたる2009年度の最初の評価委員会（2010年1月）では、公立文化施設の自己評価システムや他の組織の評価フレームのサンプルを持ち寄り、TAN事務局、評価委員とで本格的な検討を行った。その結果、「TANの自己評価に基づく外部評価」に「NPOとしてのミッション評価」を加えた、2本立ての新しい評価フォームを構築することができた。2010年度も、このフォームをベースに若干の改良を加えて使用している。

(2) 評価の循環プロセスの確立

第2期の評価委員会からのもうひとつの申し送りとして、「評価を事業計画づくりに反映させるスケジュールの確立」が挙げられていた。この点については、迅速かつ効果的に行われているとすることができる。ミッションをより深く掘り下げたプログラム作りや、発信力強化への取り組みなどにみられるように、TAN事務局では、評価委員会が理事会に報告した評価・提言を積極的に事業内容に反映させている。TANの自己評価⇒評価委員会による客観的評価⇒理事会へ報告・提言⇒TANの事業計画・内容への反映という流れが確立したといえよう。

2. 今後に向けて

一方で、残念ながら積み残しとなったものもある。

ひとつ目は、コミュニティ活動の効果測定である。コミュニティ活動はTANを特徴づけている活動の柱であり、内容・実績ともに充実しているが、その効果を的確に把握し、分析するためには、アウトリーチ活動の対象者へのアンケート調査集計だけでは充分とはいえない。一般の人々のTANの活動への認知度・コミュニティへの浸透度の変化などについて、客観的・経年的に測定することが望ましく、どのような手

法が考えられるか、評価委員会でも再三話し合ったが、残念ながら現実的に可能な手法を提案するまでに至らなかった。次期評価委員会には、ぜひ TAN 事務局とともに取り組んでいただきたい。

また、今後の10年を見据えたものとして、「地域の拠点としての組織づくり」がある。「総合評価と提言」でも述べたが、「ミッションの整理と再定義」そして、地元の声を活動に組み込むための具体的な方法について話し合うことが、大切となってくる。

さらにその先のステップとして、「評価」そのもののあり方についても言及したい。社会の変化や TAN という組織の成長発展に伴い、今後評価委員会の役割にも変化が生じることは十分に考えられる。現在のような評価委員会の活動フレームが、これから先の TAN にとっても最適なものであるのか、評価の位置づけや方法論の再検討も場合によっては必要かもしれない。この点についても次期評価委員会への申し送りとしたい。

(文責：武濤)

3. 評価委員の感想

「第3期評価委員を終えて」

片山正夫：公益財団法人セゾン文化財団 常務理事

これまでもいくつか別の団体で評価のお手伝いをさせていただいた。その経験から言えることは、自発的にこのような外部評価をしようという団体は、その時点ですでに意識が高く、もともと問題の少ない組織であるということだ。

TAN もやはりその例外ではない。だから、評価といっても高みから裁断するようなイメージではなく、一緒に課題を考え、当事者では気づきにくいかもしれないポイントを提示する、といった作業が自ずと中心になった。その意味では、「評価のための評価」ではない、「今後役に立つ評価」に、少しはなりえたのではないかと思う。

私自身は音楽分野に精通しているわけではなく、当初は第一生命ホールといっても良質な活動をしているホールのひとつ、という程度の認識しかなかった。しかし評価活動を通じて、ここにはたいへんユニークなポテンシャルがあることに気づいた。

そのひとつは生命保険会社を母体としている点である。財団の世界では、やはり生保を母体とするニッセイ文化振興財団が、ニッセイバックステージ賞という賞を出している。文字通り舞台の裏方さんを顕彰する賞だが、受賞者には賞金以外に何と終身年金が支払われる。母体企業の特性を生かした心憎いアイデアといえる。

TAN が、「ライフサイクルコンサート」など、ライフステージごとのプログラム対応を図っているのも、同様に母体企業との理念的共鳴があつてのことだ。今後もこの優れた取り組みをさらに深めていってほしいと感じる。

もうひとつは中央区の臨海部という立地である。TAN はこれまでもアウトリーチなどを通じ、地域コミュニティへの働きかけに力を注いできたが、このコミュニティの人口動態は、日本全体が今直面している状況とはかなり位相を異にしている。若い人口が増え続けているのだ。将来に夢を描ける稀有な条件といえる。これからも、このホールと TAN の活動がどのような成長を遂げていくのか、関心を持って見守りたいと思う。

「TAN 評価委員 3 年を終えて」

喜多 爽：公益社団法人企業メセナ協議会 プログラム・オフィサー

評価の目的や方法はさまざまだが、この評価委員会では、良し悪しのランク付けではなく、社会や TAN に関わる一人ひとりにとって価値ある活動ができるためには、という視点に立って、活動の特長や変化を見つけ、課題を検証することをめざした。そうした理想を TAN および評価委員と共有できたことを、非常に幸福に思う。

奇しくも TAN では事務局長とディレクターが交代し、設立 10 年目の節目に向かうタイミングで、活動の原点をあらためて意識し、長期的に現れてきた成果を確認し、成長期に次ぐ組織像を探る過程に立ち会い、やりがいがあった。評価に際し、データやインタビュー等、求めるとすぐに実行くださった TAN と評価委員事務局のおかげで、具体的な検証ができたし、僭越にも、事業のアイデアを出しあうなど、前向きで活発な会議であった。

TAN は寄付や協賛、助成で支えられている。支援企業を開拓し、会員を増やしているとはいえ、財政は苦しい。一般的に企業の資金支援のハードルも年々厳しくなっている。見せるため・褒めるための評価が必要ではないか、率直な指摘や稚拙な提案が役立つだろうか、毎年悩んだが、理事や事務局がポジティブに取り組んでくださったため、目に見えて前進が実感できるまでとなった。迅速な実行志向は、さすが企業人がマネジメントを見守る組織である。TAN の優れた自己評価と実践が、評価を生きたものにしてくれたのだ。

個人的には、TAN において従来の外部評価は役割を終えたのではないかと思う。いわゆる PDCA が完璧であり、課題と中長期の目標が明確である以上、外部のプロは、成果や達成度を見るよりも、市場分析や事業開発に活用してはどうだろうか。

世の中の価値観が激変し、都心だからこそコミュニティの担い手が重要になっている。領域を超えて創造の場を広げる集団として、次の 10 年もアート NPO を先駆けて行ってほしい。

「文化と地域コミュニティ」

河野 聡：中央区文化・国際交流振興協会 事務局長

評価委員のお話をいただいた時、今まで音楽とは縁が少なく躊躇していたが、コミュニティ分野を中心に参加してほしいとのことなのでお受けした。

TAN の主たる活動地域である中央区は、急激な人口増加が続く中、新たな都心コミュニティづくりが大きな課題となっている。中央区は「文化振興プラン～文化がつむぐ都心コミュニティ～」の提言（2008 年 3 月）に基づき、江戸開府以来の豊かな文化を背景に文化振興を進め、誰もが心豊かな生活を送れるまち、お互いの交流や地域が活性化したまちの実現を目指している。

提言の一つに、協会と中央区が共催している「中央区まるごとミュージアム」がある。船とバスを運行して、区内各地で開催される文化事業や画廊・美術館などをめぐって、中央区の良さを再発見してもらうとともに、人々の交流を進めるものである。

TAN は、以前から区立小学校や福祉施設等で積極的にアウトリーチ活動を展開されており、まるごとミュージアムにも 2 回目からロビーコンサートで参加いただいている。昨年は、区立郷土天文館と連携して、プラネタリウムで星空を見ながら弦楽器の響きを楽しむ「星空のコンサート」を開催され大変好評であった。

まるごとミュージアムは、区内の文化事業者・団体の連携強化や意見交換の機会でもある。文化庁の「優れた劇場・音楽堂からの創造発進事業」の「地域の中核劇場・音楽堂」として助成事業に採択されたのを機に、地域との連携を一段と進め、TAN の特徴であるライフサイクルコンサートとコミュニティ活動により一層磨きをかけられ、全国の先駆けとしてさらに発展されることを期待しております。

「TAN 評価委員を務めて」

善積 俊夫：社団法人日本クラシック音楽事業協会 常務理事

世界の中で、最も音楽ホールが多く、毎日多数の音楽公演が行われている都市東京、その中で独自性を表現して存在感のあるホール運営を行うことは、かなりハードルが高いものがあります。

評価委員として活動に参加させていただいて、TANの活動が、毎年自己評価と外部委員による評価、評価に基づく課題の抽出を行い着実に前進していることに、改めて関係者の皆様のご努力に敬意を表します。

新しい街トリトンスクエアと江戸時代からの伝統ある地域をバックグラウンドとするTANの活動は、芸術的な質感を高めることを前提としながらも、地域の都民の方々のライフスタイルに、音楽を核とする芸術文化の定着と、豊かなエンターテインメントの提供を目指した事業展開が命題であり、その進展のために3年間評価委員として少しでも、点をつけるためのみではなく、前進のための提案が、委員各位と出来たのではないかと思います。

委員各位と活発な協議が積み重ねられたことは、私にとっても貴重な経験であり、評価委員の各位とTANのスタッフの皆様に感謝します。

今後TANの活動が、地域の幼児から高齢者までの精神的なよりどころになるホールとして、感動を創出する個性的な企画を続け、地域に浸透することを期待します。

第Ⅳ部 資料編

1. TANのミッション・定款 - 16 ページ
2. 第一生命との関係および TAN 組織図 - 17 ページ
3. 事業活動関連資料 - 18 ページ
 - (1) ホール事業
 - (2) コミュニティ事業
 - (3) ガバナンス
4. 広報ツールリニューアル関連資料 - 23 ページ

*本資料編は、2010 年度の評価委員会が、評価にあたって使用した数多くのデータ（本稿 28 ページ参照）から、一部を参考資料として抜粋したものである。

1. TANのミッション・定款

[TANのミッション]

音楽活動を通じて地域社会に貢献するNPOとして「音楽により、多くの人々の心に豊かな時間を提供する」をミッションに掲げ、音楽を「広める」「創る」「育てる」活動をしている。その大きな柱は「第一生命ホールを拠点とした芸術活動」と「地域コミュニティと芸術や芸術家を音楽によって結び付けていくコミュニティ活動」の2つである。

[定款] 2009年10月23日一部変更

第3条（目的）

この法人は、東京都中央区の晴海、月島、佃、勝どき地区を主とした地域の人々に対して、音楽を中心とした芸術活動ならびに地域活動を行うことにより、わが国の文化、芸術の発展に寄与することを目的とする。

第4条（特定非営利活動の種類）

この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の活動を行なう。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4) 子どもの健全育成を図る活動

第5条（事業）

この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として次の事業を行う。

- (1) 自主企画公演事業
- (2) コンサート出前事業
- (3) アウトリーチプログラム事業
- (4) 若手演奏家支援事業
- (5) 前各号の事業を行うために必要な外国人の招へい
- (6) 文化ボランティア拠点づくり事業
- (7) 評価事業
- (8) その他目的を達成するための事業

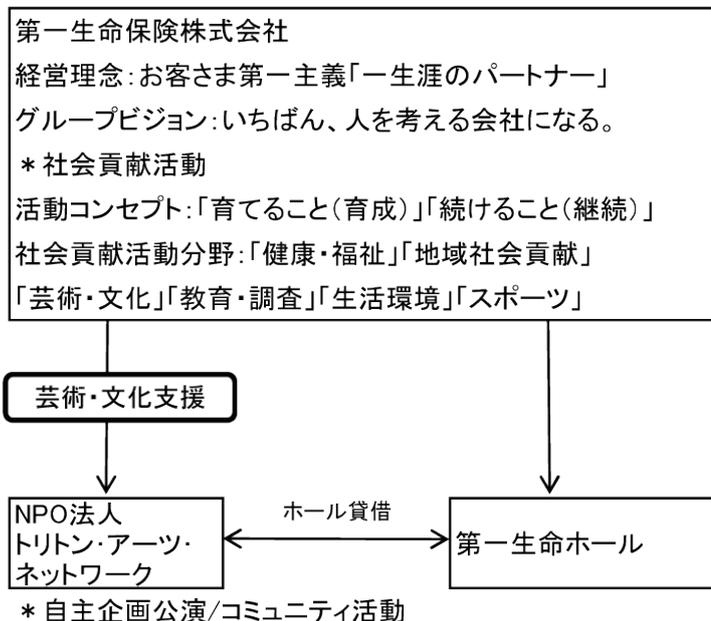
<参考資料>

TAN アウトリーチハンドブック作成委員会「アウトリーチハンドブック」(株)バンセ・ア・ラ・ミュージック、2007年。

TAN ホームページ< <http://www.triton-arts.net/> >

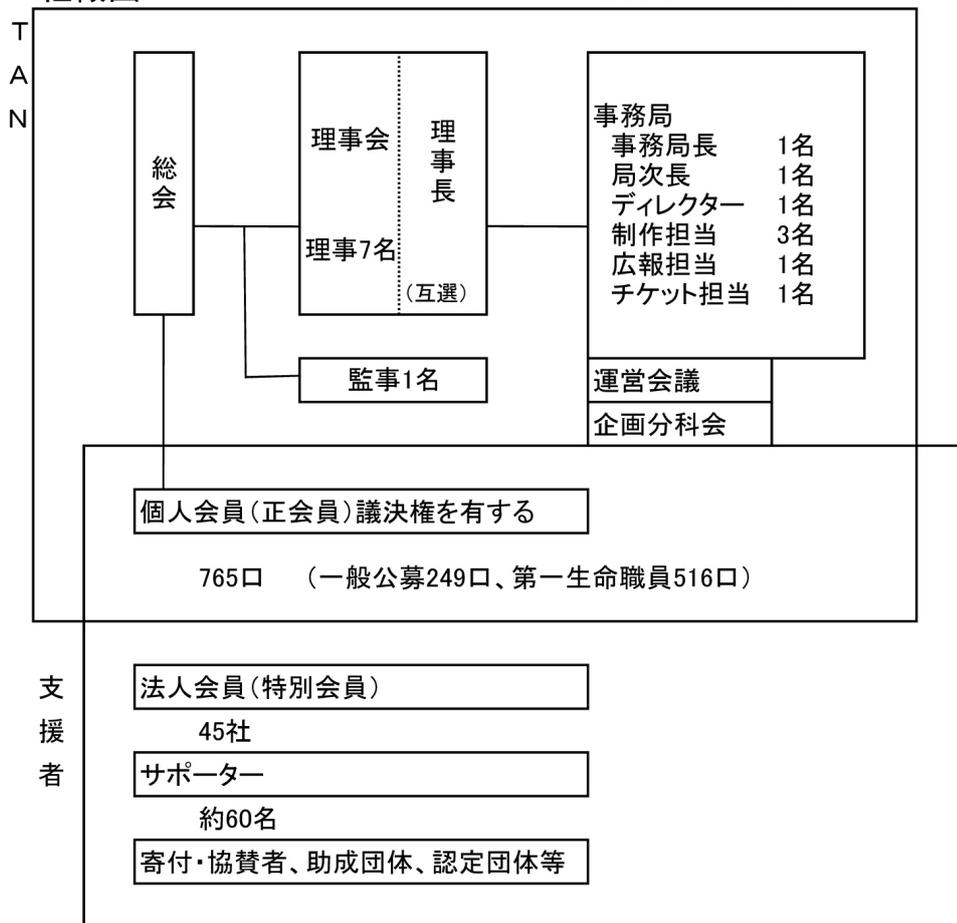
2. 第一生命との関係および TAN 組織図 (資料：TAN 事務局作成)

第一生命保険との関係



組織図

(数字は2011.5現在)



3. 事業活動関連資料

本項では、2010年度の実績を過去データとあわせて、(1) ホール事業 (2) コミュニティ事業 (3) ガバナンスの3つの順に紹介する。(資料：TAN事務局作成の2010年度業務計画を基に評価委員会事務局が作成)

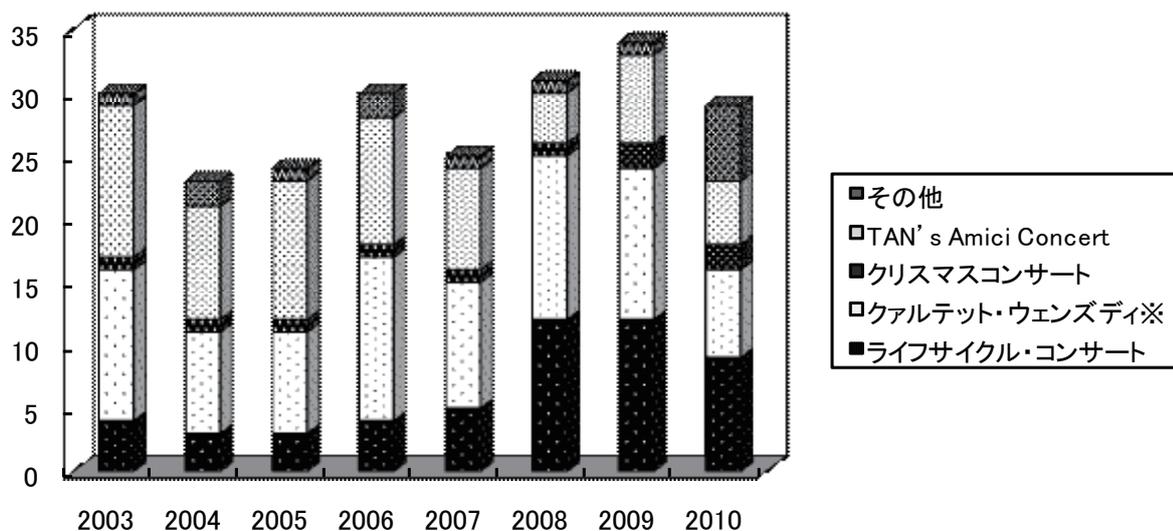
(1) ホール事業

①シリーズ別公演数

シリーズ名/年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
ライフサイクル・コンサート	4	3	3	4	5	12	12	9
クアルテット・ウェンズディ※	12	8	8	13	10	13	12	7
クリスマスコンサート	1	1	1	1	1	1	2	2
TAN's Amici Concert	12	9	11	10	8	4	7	5
その他	1	2	1	2	1	1	1	6
計	30	23	24	30	25	31	34	29
うち主催公演	10	14	13	20	17	27	27	24

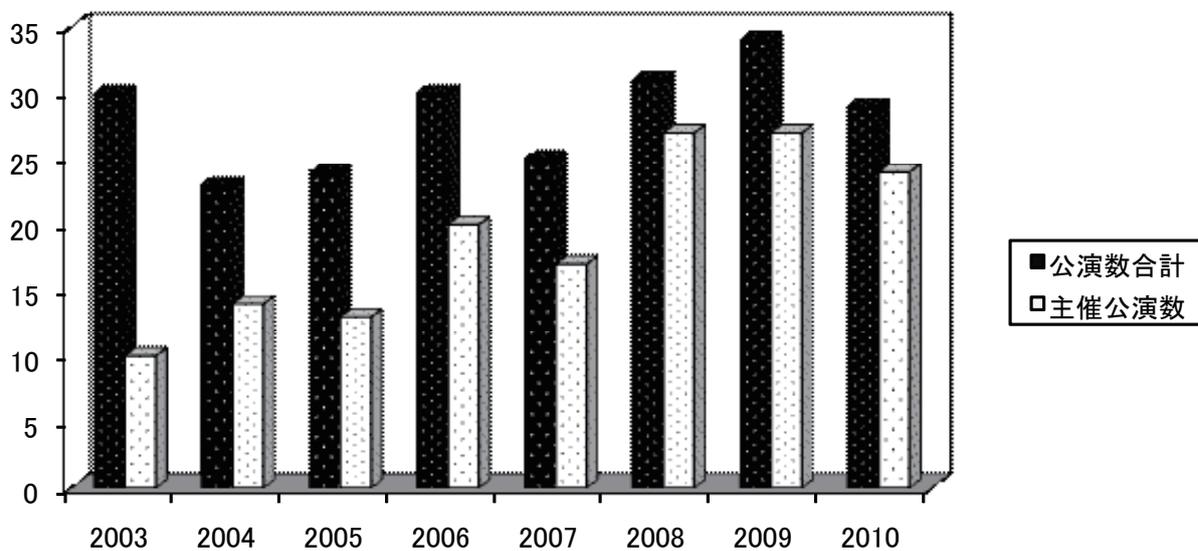
※ 2008年度よりクアルテット・ウィークエンドに開催曜日を変更して名称変更した。

②公演数推移



※ 2008年度よりクアルテット・ウィークエンドに開催曜日を変更して名称変更した。

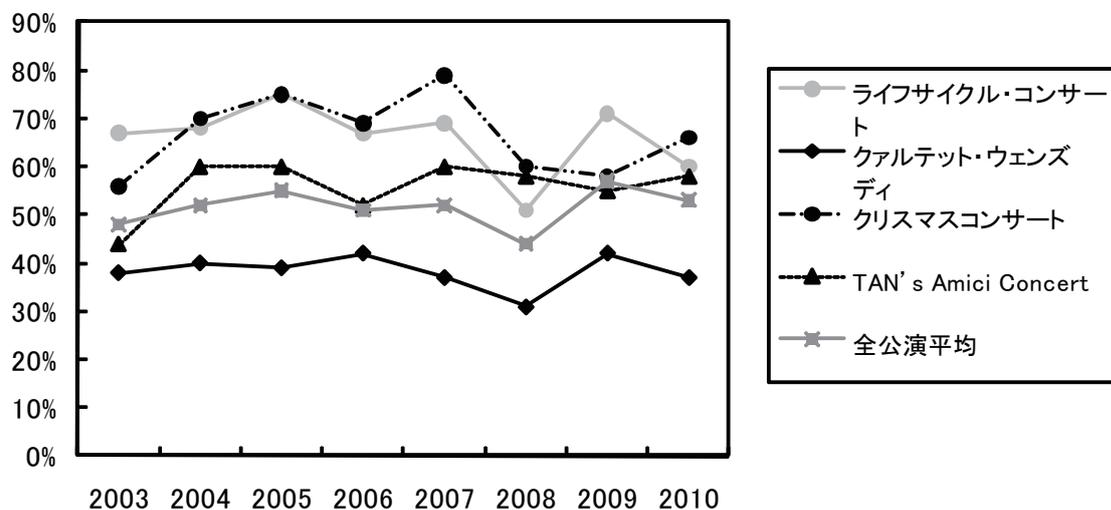
③主催公演の割合の推移



④シリーズ別充足率

シリーズ名/年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
ライフサイクル・コンサート	67%	68%	75%	67%	69%	51%	71%	60%
クアルテット・ウェンズデイ	38%	40%	39%	42%	37%	31%	42%	37%
クリスマスコンサート	56%	70%	75%	69%	79%	60%	58%	66%
TAN's Amici Concert	44%	60%	60%	52%	60%	58%	55%	58%
全公演平均	48%	52%	55%	51%	52%	44%	57%	53%

⑤充足率推移

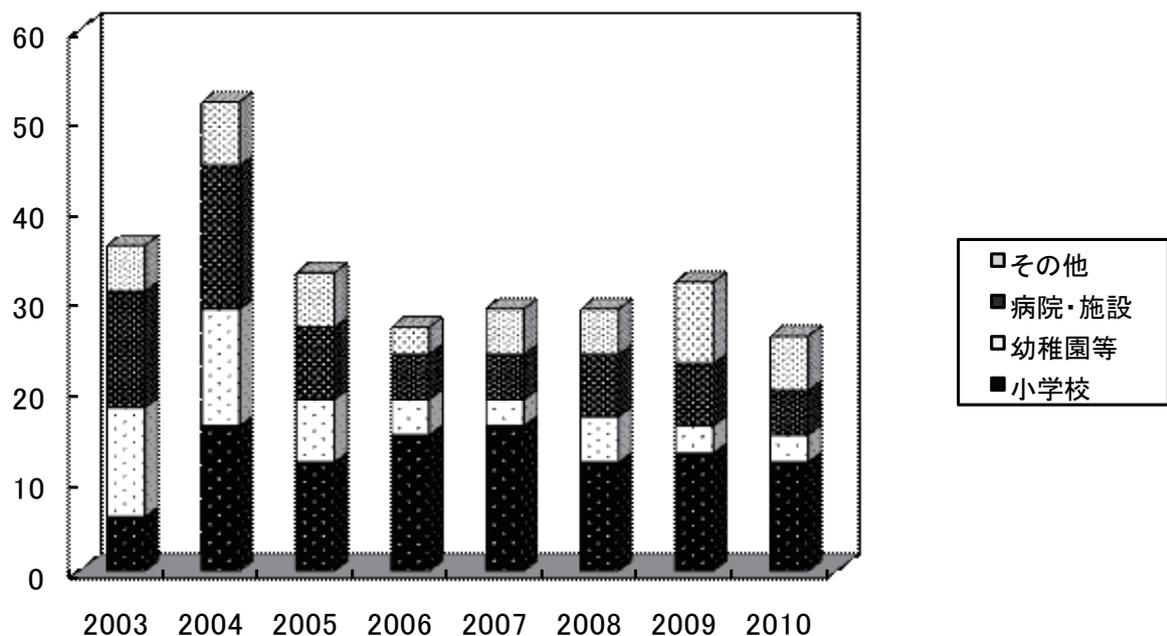


(2) コミュニティ事業

①アウトリーチ実施場所

場所／年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
小学校	6	16	12	15	16	12	13	12
幼稚園等	12	13	7	4	3	5	3	3
病院・施設	13	16	8	5	5	7	7	5
その他	5	7	6	3	5	5	9	6
計	36	52	33	27	29	29	32	26
うち協力	8	14	6	2	2	2	2	4

②アウトリーチ実施場所推移

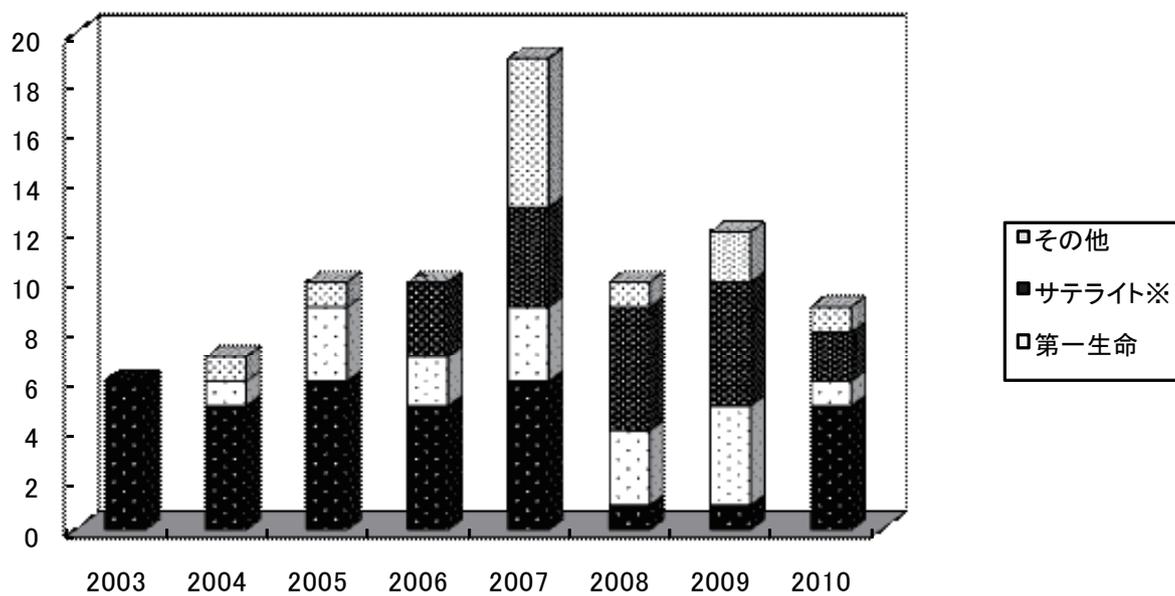


③ロビー・サテライト実施場所

場所／年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
ホール・ロビー	6	5	6	5	6	1	1	5
第一生命	0	1	3	2	3	3	4	1
サテライト ※	0	0	0	3	4	5	5	2
その他	0	1	1	0	6	1	2	1
計	6	7	10	10	19	10	12	9

※ 2009 年度よりハローコンサートに名称変更した。

④ロビー・サテライト実施場所の推移



※ 2009 年度よりハローコンサートに名称変更した。

(3) ガバナンス

①会員別年会費

個人会員		1万円
法人会員	エステルハージ・サークル会員	50万円
	ラズモフスキー・サークル会員	20万円

②会員状況、助成先、協賛先の推移

分類 / 年度		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
個人会員	計	819口	851口	836口	827口	790口	747口	710口	765口	
	内訳	第一生命	505	523	513	505	486	458	447	516
		その他	314	328	323	322	304	289	263	249
法人会員		23社	24社	32社	33社	31社	30社	41社	45社	
助成件数		5	8	6	10	8	4	7	6	
協賛件数		2	2	3	3	3	3	3	4	

③サポーター数の推移

分類/年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
サポーター数	143	141	128	87	84	77	68	69	58
うち中央区民	40	37	27	18	19	20	17	23	20
実働数	—	—	—	—	—	35	60	62	58

4. 広報ツールリニューアル関連資料

TAN では 2011 年度に 10 周年を迎えるにあたり、2009 ～ 2010 年度に以下のような広報ツールのリニューアルを行った。

- ・かわら版リニューアル（2009 年 9 月）
- ・TAN 活動紹介パンフレットの改訂（2010 年 4 月）
- ・2009 年度事業報告書の改訂（2010 年 7 月）
- ・ホームページリニューアル（2011 年 2 月）
- ・新しい TAN のロゴならびに 10 周年のロゴの制定（2011 年 2 月）

このうち本稿では、（1）改訂された事業報告書に対する評価委員の意見、（2）リニューアルされたホームページに対する評価委員の意見、（3）かわら版リニューアルの基となったアンケート調査（2008 年度、2009 年度実施）について、まとめる。

（1）改訂された事業報告書（2010 年 7 月発刊）に対する評価委員の意見

◆良い点◆

- ・公演ごとにフォームを作成してまとめた点が見やすく、わかりやすくなった。写真を入れるのも大変効果的。
- ・丁寧に作成されており、内容も必要と思われる情報が網羅されている。
- ・各公演を同一様式でまとめることにより、各事業の概略を把握しやすく、各事業の比較も出来るようになった。
- ・項目に①入場者数、入場率 ②結果・振り返りが、追加され成果評価が解りやすくなっている。
- ・公演等の記録が表になって、ぐっとみやすくなった。

◆今後への提案◆

- ・事業の全体像が見えにくいので、冒頭に事業構成を入れてはどうだろうか。
- ・年間活動一覧の表示場所は埋もれない分かりやすい場所に移動してはどうか。
- ・章立てが少々わかりにくい。
- ・内容をもう少し絞り込んで定量的な報告と特筆すべき事業と課題に絞り、評価委員会の報告書との整合性を整理してみるのも良い。
- ・情報やデータは現状どおりきちんと押さえつつ、もう少しレイアウトにメリハリをつけると読みやすいものになる。写真も、もう少し大胆に使ってもよい。
- ・文章の「主体」が TAN 自身、お客様など混在しており、多少の違和感がある。
- ・モニターレポートは巻末に資料として入れてはどうか。そしてモニターについて一言説明が必要。あるいは、公演記録に付録する。

(2) リニューアルされたホームページ（2011年2月）に対する評価委員の意見

◆良い点◆

- ・以前のものに比べて、すっきりと洗練された感じがある。
- ・とても充実したHPですばらしい。アーティストのインタビューや、モニターのレポートなど、読ませるコンテンツも工夫されている。
- ・全体に視覚的に見やすくセンスが良くなった。ナビゲーション、情報の切り分けと順序、見出しのことばづかい、案内の流れ、すべてわかりやすい。
- ・公演情報とインタビューの連動なども、当たり前のようにできていない施設・事務所が多い中で、お客様の視点からつくられ、担当者の目が行き届いているのがよくわかる。

◆今後への提案◆

- ・やや全体的にデザインが上品すぎ、静的な感じがするので、もう少しダイナミズムをもたせたほうがよいようにも感じる。
- ・全体の色調が寒色系なので少し冷たい感じがする。
- ・「公演情報」のTANモニターレポート、「コミュニティ活動」のレポートが、あちこちに分散してわかりづらくなっている。せつかくの細やかな活動レポートなので、読んでもらえるよう、もうひと工夫欲しい。モニターレポートは見出し一覧ページがあるととってもよいと思う。
- ・TANの動画紹介と公演情報が画面いっぱいに拡がればもっとアピールできるのではないかな。
- ・サポート会員などの声があっても良いのではないかな。アンケートで参考になる意見があれば承諾を得て記載してもおもしろいのではないかな。
- ・会員への入会アプローチについて、「支援が必要なのでお願いします」という部分だけでなく、会員になることの魅力をもっとアピールしていくことが必要ではないかな。
- ・第一生命ホールサイトを開いている場合、トップページのTANバナーに気づいていただける確率が低いと思う。せめてコンサートスケジュールのページにて、①上部にバナー、②公演ごとに「詳細はこちら」というようなリンクがあると良いのではないかな。
- ・公演情報に、同じプログラムの過去のレポートへリンクがあると、演奏家や曲目を知らなくても、参考になるかもしれない。
- ・ブログ、ツイッターのアイコンはもっと目立たせてもよいのではないかな。

(3) かわら版リニューアルの基となったアンケート調査（2008年度、2009年度実施。一部抜粋）

TANでは、2008年2月および2009年2月に実施した、かわら版読者へのアンケート調査の結果等を参考に、2009年9月に紙面刷新を実施した。本報告書では、そのアンケートの結果について報告する。（TAN提供の集計データをもとに評価委員会事務局にて抜粋）

アンケート実施概要：TANかわら版にアンケート葉書を組込み。郵送（切手不要）にて回答。
実施時期および回答数：2008年2月（n=79）、および2009年2月（n=91）

1. 回答者年代別属性

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	合計
2008年	0	2	11	24	17	19	4	1	1	79
2009年	2	3	16	17	13	27	8	1	4	91

2. かわら版を読んだことがありますか？

	毎号読んでいる	時々読んでいる	今回初めて読んだ	読んでいない	無回答	合計
2008年	43	22	12	0	2	79
2009年	46	21	22	1	1	91

3. 「毎号読んでいる」、「時々読んでいる」というお答えの方へ。良く読む記事は？（複数回答）

	インタビュー	コミュニティ活動	クローズアップ	スケジュール	広告	合計
2008年	27	18	11	46	3	105
2009年	35	18	20	42	5	120

4. これまでに第一生命ホールにお越しいただいたことはありますか？

	ある	ない	無回答	合計
2008年	58	19	2	79
2009年	74	15	2	91

5. かわら版を読んでチケットを購入したことはありますか？ない場合、その理由は？

	ある	ない① 日程・時間	②行きたい 公演がない	③ホールが遠い	④その他	不明	合計
2008年	33	19				37	79
2009年	43	19	6	4	16	3	91

6. かわら版を読んでコミュニティイベントに参加したことはありますか？

	ある	ない① 日程・時間	②興味あるイ ベントがない	③会場が遠い	④その他	不明	合計
2008年	28	45				6	79
2009年	32	24	10	7	14	4	91

7. 「かわら版」はどこで手に入れましたか？（複数回答）

	トリトンスクエア内	学校	職場	定期購読	その他	合計
2008年	19	16	18	23	7	83
2009年	21	21	18	21	20	101

8. TAN の活動を知っていますか？

	知っている	知らなかった	今回知った	無回答	合計
2008 年	50	12	15	2	79
2009 年	58	17	16	0	91

9. 好きな音楽のジャンルは？（複数回答）

	クラシック	ポップス・ロック	ジャズ	邦楽	その他	合計
2008 年	61	16	17	8	2	104
2009 年	75	18	23	10	7	133

※好きなクラシックのジャンルは？（複数回答）

	オペラ	オーケストラ	室内楽	ピアノ	その他*	合計
2008 年	10	34	25	25	7	101
2009 年	23	48	43	39	7	160

*その他内訳（2009 年） 弦楽器ソロ4、バレエ1、弦楽1、宗教音楽1

10. クラシック音楽のコンサートに行ったことがありますか？

	はい	いいえ	無回答	合計
2008 年	71	3	5	79
2009 年	85	2	4	91

◆かわら版についてのご意見（2009 年）◆

- ・インタビューが面白く、とても勉強になる。音楽に携わる方々の本音や思いが載っており、とても興味深い。
- ・クラシックにあまり詳しくない私でも気軽に参加できそうなプログラムがあるのでよくチェックしている。
- ・記事が多すぎて読みづらい。字を大きくする等、もう少し読みやすくして欲しい。
- ・第一生命ホールでの演奏会はリーズナブルでうれしい。
- ・少し読みづらいので、時間がない時は読めない。
- ・音楽は聴きに行きたくても遠い存在と思っていましたが、身近に感じられた。
- ・インタビューの質・量ともに中途半端感が強い。レイアウト等工夫の余地がある。
- ・かわら版を読んで、久し振りにコンサートに行ってみたいと思い、友達にも声をかけてみた。

◆ TAN の活動についてのご意見（2009 年） ◆

- ・面白い活動をしていることを知ったので、今後ボランティアで参加してみようかなと思っている。
- ・聞き手の視点に立ったコンサートをして下さる点がとても好感が持てる。
- ・第一生命ホールが新しくオープンしてから、一般のホールとは運営方法が違うという事で注目していた。
- ・昨年オープンハウスに行き、たくさんのボランティアの方々の親切に出会い、TAN に親しみを持った。
- ・活動の趣旨・内容そしてまさに実践の積み重ねとすばらしいと感じる。地域にしっかり根ざした草の根からの文化活動として意義はとても大きい。

おわりに

振り返れば、この評価委員会はすべてが「新しい」状況でスタートした。

メンバーが確定し、2009年1月に顔合わせを行った後、4月にTAN事務局長が交替した。ディレクターも2008年秋に着任したばかりで、それまでの評価委員会の様子を知っているのは、一部の理事と関係者のみ、という中で初年度の評価事業がスタートした。これまでの流れを知らない分、皆手さぐりではあったが、しがらみのない中で自由闊達に意見交換を行うことができ、結果として「開かれた」評価委員会となったのかもしれない。

第3期評価委員会を無事に終了することができ、安堵していると同時に、少し寂しい思いもある。今後は、応援団のひとりとして、その活動を見守りたい。

2011年度に設立10周年を迎えるTANの「新しい10年」に向けて、さらなる前進を期待している。

(評価委員長：武濤京子)

【評価事業に使用した資料一覧】

● TAN事務局手配による資料

- ・TAN2010年度業務計画振返り
- ・第一生命ホール／トリトン・アーツ・ネットワークが10周年を機に目指すもの
- ・TANのミッション・定款抜粋
- ・第一生命との関係・組織図
- ・TANのミッションの事業関連表
- ・2010年度トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール 主催・共催公演一覧
- ・TAN 2010年度コミュニティ活動一覧
- ・各ホール事業の振返りとアンケート結果
- ・かわら版アンケート
- ・ホームページ マイレポート (2011/02/21 ~ 2011/04/30)

● 評価委員事務局手配による資料

- ・ミッション評価フォーム
- ・2010年度TANの自己評価に基づく評価フォーム
- ・2009年度TANの活動に対する総合評価と提言
- ・コミュニティ活動に関するアンケート集計のまとめ ※TANのアンケートデータをもとに集計したもの
- ・2008年度と2009年度における、評価委員会から出た課題や要望をまとめた課題抽出シート
- ・評価事業報告書およびHPについてのコメント集

2010年度 特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク

評価事業報告書

著 者 : TAN 評価委員会

編 集 : 武濤京子 丸山こず恵 安間雅則 白川美帆

発 行 日 : 2011年7月

発 行 者 : 特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク

〒104-6005 東京都中央区晴海 1-8-10

晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーX 5F

TEL : 03-3532-5701 FAX : 03-3532-5703

URL : <http://www.triton-arts.net/>
